

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991800036
法人名	有限会社 北嶋
事業所名	グループホームきたじま苑
所在地	山梨県笛吹市八代町北1616-1
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 31日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 3 年 12 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が普通の日常生活が送れるように支援をしています。ご本人の残存機能を見極め、家事参加出来るようにしています。またカラオケ内にあるコンテンツの様々な体操を行い、筋力低下を防止しています。食事・排泄・入浴を楽しめるような工夫をしています。基本的な献立はありますが、ご利用者の要望を反映したり、快適な排泄が出来るよう時間での誘導・確認を行ったり、ご利用者の身体状況によって特殊浴槽が使用できる環境づくりをしています。施設で看取りが積極的に出来るよう、ご家族等や医療機関と協力関係を築き、医療行為が必要でない限りここの看取りを行っています。また看取りに対応できない主治医の場合にはご利用者様の状況により主治医切り替えの支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域の中央に位置しており、神社、支所、体育館、図書館、保育園等の施設が周辺に点在する。近所の住民との関わりを持てる場所であるが、コロナ禍のために交流は自粛していた。施設からの景色が良く、季節の風景が楽しめ、中庭に出て外気浴をする利用者も見受けられる。事業所内の飾りつけも工夫しており、今年からは職員が川柳を書いて掲示している。事業所へ往診している地域の診療所があり、担当の医師が変わっても必ず看取りまで対応して貰える環境が整っている。利用者の近況を写真を添えて知らせしており、家族からは好評である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームきたじま苑

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピンク棟)	ユニット名(ブルー棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに基本理念を掲示しています。またトイレ内に社是・経営理念・社訓を掲示しています。月に一度の全体ミーティングで検討し実践に繋げています。	リビングに基本理念を掲示しています。またトイレ内に社是・経営理念・社訓を掲示しています。月に一度の全体ミーティングで検討し実践に繋げています。	「人生の大先輩としてご利用者様を尊重する」という理念を常に目にする箇所に掲示し、職員は日頃から意識して実践している。 共有スペースは常に工夫して飾りつけがされており、今年からの取り組みとして、職員の方が川柳を考え、書いて貼り出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近年はコロナ過で出来ていませんが、以前は全事業所合同で春には感謝祭。秋には親睦会を行い利用者・利用者家族・地域住民に参加して頂き交流していた。また近所の保育園児が年に二度ほど来苑してくれた。コロナが落ち着いたら再開したいと思います。	近年はコロナ過で出来ていませんが、以前は全事業所合同で春には感謝祭。秋には親睦会を行い利用者・利用者家族・地域住民に参加して頂き交流していた。また近所の保育園児が年に二度ほど来苑してくれた。コロナが落ち着いたら再開したいと思います。	コロナの影響により、親睦会などで、地域の方々との交流が出来なかった。これまでは、保育園児の訪問を年2回ほど受け入れていたが今年は出来ない状況であった。 自治会には加入していないが、地域の代表者の方に運営推進会議に参加していただき、情報交換する中で地域の活動等を把握している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症についての資料を配り理解して頂けるようにしていた。	運営推進会議では認知症についての資料を配り理解して頂けるようにしていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催していましたが、コロナ過で開催は行っていませんが、利用者の状況のみ郵送にて報告しています。再開したら意見を参考にしてサービスの向上に活かしていきたいと思っています。	二か月に一回開催していましたが、コロナ過で開催は行っていませんが、利用者の状況のみ郵送にて報告しています。再開したら意見を参考にしてサービスの向上に活かしていきたいと思っています。	運営推進会議には、区長・老人会の方が参加している。民生委員の方にも参加していただきたい意向である。 老人会の方からの相談で、地域の困っている方の相談に乗り、入所に繋がったケースもあった。 コロナ禍以降は会議を開けないため、郵送で情報を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から何かあれば相談できる環境を整えています。困りごとにも対応いただいています。	日頃から何かあれば相談できる環境を整えています。困りごとにも対応いただいています。	三か月に一回、介護相談員に入っているが、現在はコロナ禍のため、中断している。 市の連絡協議会が11月から再開し、参加している。 定員は自己評価を行った後に2名増え、現在17名となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため玄関の施錠を行っています。身体拘束をしないケアがどうしてもできるのかを職員全員で考え、実践しています。また身体拘束防止委員会を三か月に一回開催し、その内容を職員に周知し実践しています。	夜間は防犯のため玄関の施錠を行っています。身体拘束をしないケアがどうしてもできるのかを職員全員で考え、実践しています。また身体拘束防止委員会を三か月に一回開催し、その内容を職員に周知し実践しています。	夜間以外の玄関の施錠はしていない。 年二回職員へのアンケート、週一回のミーティングなどで、いかに拘束をしないケアが出来るかを考え、実践に繋げている。ミトンでは出来る限り外すように努力している。「自分の親だったらどうするか」という意識を常に持ち取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、月に一度の全体ミーティングで周知し実践につなげています。また入浴時に身体チェックを行っています。	虐待防止マニュアルを作成し、月に一度の全体ミーティングで周知し実践につなげています。また入浴時に身体チェックを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加して全体ミーティングで職員全員に周知をしています。	管理者が研修に参加して全体ミーティングで職員全員に周知をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族等に十分に説明を行い理解・納得できるようにしています。また疑問や不安な点について話を聞き、十分に説明を行い理解を得ています。	利用者・ご家族等に十分に説明を行い理解・納得できるようにしています。また疑問や不安な点について話を聞き、十分に説明を行い理解を得ています。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームきたじま苑

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピンク棟)	ユニット名(ブルー棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族等からの要望には、できる範囲で対応しています。できないことはできない理由を説明してご理解していただけるよう努めています。	利用者・ご家族等からの要望には、できる範囲で対応しています。できないことはできない理由を説明してご理解していただけるよう努めています。	ご家族がかかりつけ医へ連れて行くことが難しいと相談された場合は、事業所への往診に変更するなど、状況に応じて対応している。 これまでは面会ができなかったため、電話で相談を受けた際は困りごとなど聞き出すようにしていた。最近になって少し緩和して玄関での面会に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体ミーティングで職員からの意見や提案を聞く機会を設けています。職員全員で考え、運営に反映できるようにしています。	月に一度の全体ミーティングで職員からの意見や提案を聞く機会を設けています。職員全員で考え、運営に反映できるようにしています。	日頃の業務の中で気付きがあれば、随時提案してもらい、全体ミーティングの議題として検討することになっている。 職員の勤務時間については決められた枠だけでなく、生活パターンに応じた勤務時間への変更を可能とし、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員毎に勤務時間の変更を行い、それぞれの体力なども考慮しています。一人一人が目標を持ち、働き甲斐のある職場環境になるように努めています。	職員毎に勤務時間の変更を行い、それぞれの体力なども考慮しています。一人一人が目標を持ち、働き甲斐のある職場環境になるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修や資格取得など積極的に参加していただきスキルアップを図っています。	各種研修や資格取得など積極的に参加していただきスキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入させていただき、各種研修や施設見学に参加し良い点を自施設で活かせるようにしています。	県のグループホーム協会に加入させていただき、各種研修や施設見学に参加し良い点を自施設で活かせるようにしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と十分に話し合いをもって、どんなことに困っているのか、どんな生活がしたいのかを聞き、安心して生活できる環境を作ることに努めています。	ご本人と十分に話し合いをもって、どんなことに困っているのか、どんな生活がしたいのかを聞き、安心して生活できる環境を作ることに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等と十分な話し合いをもって、どんなことに困っているのか、どんな生活をして欲しいのかを聞き、ご本人やご家族等がともに安心した生活ができるように努めています。	ご家族等と十分な話し合いをもって、どんなことに困っているのか、どんな生活をして欲しいのかを聞き、ご本人やご家族等がともに安心した生活ができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族等と十分な話し合いをもって、どんなことに困っているのか、どんな生活をして欲しいのかを聞き、ご本人やご家族等がともに安心した生活ができるように努めています。	ご家族等と十分な話し合いをもって、どんなことに困っているのか、どんな生活をして欲しいのかを聞き、ご本人やご家族等がともに安心した生活ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がどこまでできるのかを見極め、なるべくご本人ができることはご本人にしてもらい、できないことをサポートし生活を共にしていくよう努めています。	ご本人がどこまでできるのかを見極め、なるべくご本人ができることはご本人にしてもらい、できないことをサポートし生活を共にしていくよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームきたじま苑

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピンク棟)	ユニット名(ブルー棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会に訪れた際や毎月の手紙などミーティングで話し 合われた、ご本人の身体的・精神的にな状況の変化を 報告し、共にご本人を支えて行けるように努めていま す。	面会に訪れた際や毎月の手紙などミーティングで話し 合われた、ご本人の身体的・精神的にな状況の変化を 報告し、共にご本人を支えて行けるように努めていま す。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会の制限をしているためできていませんが、 落ち着いたら再開してご家族等と協力して支援に努め ていきます。	現在は面会の制限をしているためできていませんが、 落ち着いたら再開してご家族等と協力して支援に努め ていきます。	コロナ禍以前はご家族と一緒に馴染みの方に会いに外 出していた。ADLの良い方はご家族の家に外泊したり、 旅館に泊まったりするケースも見られた。 今はコロナ禍で中断しているため、事業所内で楽しめる 行事を企画して寂しい想いをしないように工夫してい る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	席替えなどを行い、お互いの相性や個性を尊重してよ り良い生活ができるよう支援しています。	席替えなどを行い、お互いの相性や個性を尊重してよ り良い生活ができるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人やご家族等、または施設などから要望があれ ば相談や支援に努めています。	ご本人やご家族等、または施設などから要望があれ ば相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	それぞれの暮らし方の希望や意向に対してできるだけ 対応しています。思いを伝えるのが困難な方に関し ては、ご家族等と検討したり、普段の声掛け時の表情・ 態度などから汲み取れるようにしています。	それぞれの暮らし方の希望や意向に対してできるだけ 対応しています。思いを伝えるのが困難な方に関し ては、ご家族等と検討したり、普段の声掛け時の表情・ 態度などから汲み取れるようにしています。	思いを伝えるのが困難な利用者には、積極的に声をか けて思いを汲み取るようにしている。 自ら進んでお手伝いなどをしてほしいという方もいる。 日々の生活の中で、出来る事、出来るがやりたくない事 など、その日の様子や意向により活動できるよう、配慮 している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人へのアセスメントやご家族等とから話を聞いて います。また以前に関わりのあった施設・病院に情報 を聞き把握に努めています。	ご本人へのアセスメントやご家族等とから話を聞いて います。また以前に関わりのあった施設・病院に情報 を聞き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	月に一度の全体ミーティングなどでご本人の身体的・ 精神的な問題点を探り把握に努めています。	月に一度の全体ミーティングなどでご本人の身体的・ 精神的な問題点を探り把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人・ご家族等の要望や意見を十分に話し合い、ご 本人にとっての問題や課題を考え、基本的には1年間 で介護計画の見直しをしています。また面会の際にも ご本人の様子を伝え連携しています。	ご本人・ご家族等の要望や意見を十分に話し合い、ご 本人にとっての問題や課題を考え、基本的には1年間 で介護計画の見直しをしています。また面会の際にも ご本人の様子を伝え連携しています。	介護計画については、何も問題がない場合は、短期で 6か月、長期で1年のサイクルで見直している。モニタリ ングは毎月行っている。利用者の状況が短期で変化した 場合は、状況に応じて介護計画を見直している。 変更の際は本人、ご家族に説明を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤者からの申し送り、朝の朝礼、遅番への申し送 り、夜勤者への申し送りをし、ご利用者の状況を職 員が確認できるように対応しています。何か変わった 出来事や発言などがあれば個人記録やミーティ ングノートに書き込むようになっています。	夜勤者からの申し送り、朝の朝礼、遅番への申し送 り、夜勤者への申し送りをし、ご利用者の状況を職 員が確認できるように対応しています。何か変わった 出来事や発言などがあれば個人記録やミーティ ングノートに書き込むようになっています。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームきたじま苑

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピンク棟)	ユニット名(ブルー棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの職員の経験を活かし、それぞれの利用者に合わせて柔軟な対応が行えるような職場環境に努めています。	それぞれの職員の経験を活かし、それぞれの利用者に合わせて柔軟な対応が行えるような職場環境に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は行えていませんが、地域の保育園児が来苑して、歌やお遊戯を披露してくれていました。コロナが落ち着いたら再開を考えています。	現在は行えていませんが、地域の保育園児が来苑して、歌やお遊戯を披露してくれていました。コロナが落ち着いたら再開を考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはそれぞれの主治医を持っています。看取りに対応ができない場合には変更をお願いします。受診時には看護師サマリーやバイタル表を渡し、ご本人のにあった適切な医療が受けられるように努めています。ご家族が対応できない場合には施設での対応をしています。	基本的にはそれぞれの主治医を持っています。看取りに対応ができない場合には変更をお願いします。受診時には看護師サマリーやバイタル表を渡し、ご本人のにあった適切な医療が受けられるように努めています。ご家族が対応できない場合には施設での対応をしています。	利用者のかかりつけ医が看取りに対応できない場合は、事業所に往診に来ている病院に変更している。事業所が看取りをお願いしている病院は、医師が変わっても対応可能となっている。看護師の資格を持っている介護スタッフがいるので、日頃から利用者の健康状況を把握し通院時のサマリー等を作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	非常勤ではあるが看護師が利用者の健康状態をチェックし、緊急時にh24時間連絡が取れる状態を確保し、指示を仰ぎ対応しています。	非常勤ではあるが看護師が利用者の健康状態をチェックし、緊急時にh24時間連絡が取れる状態を確保し、指示を仰ぎ対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設サマリーの提供を行い、スムーズな情報提供できるように努めています。また退院時にはカンファレンスを行い、ご本人の状況を把握して介護に役立てています。	入院時には施設サマリーの提供を行い、スムーズな情報提供できるように努めています。また退院時にはカンファレンスを行い、ご本人の状況を把握して介護に役立てています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時・ケア会議の際に説明を行い同意を得ています。ご家族等が看取りを希望した場合には主治医と相談した上で退院するよう努めています。主治医が対応困難な場合には主治医の変更をお願いします。	契約時・ケア会議の際に説明を行い同意を得ています。ご家族等が看取りを希望した場合には主治医と相談した上で退院するよう努めています。主治医が対応困難な場合には主治医の変更をお願いします。	入居時に重度化した場合や看取りについて説明している。医療行為の必要がない看取りの場合は、病院から事業所に移り、訪問看護に切り換えて対応することもある。その場合は先に挙げた往診医に対応していただける。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル、AEDの講習などを行っています。また利用者毎に救急搬送時情報提供書を作り、既往歴や服薬状況が分かるようにしています。	緊急時の対応マニュアル、AEDの講習などを行っています。また利用者毎に救急搬送時情報提供書を作り、既往歴や服薬状況が分かるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	適宜火災を想定した避難訓練を行っています。一時避難所を駐車場と決め、必ず駐車場まで避難しています。また地震や台風にも備えられるように食糧や水の備蓄を行っています。	適宜火災を想定した避難訓練を行っています。一時避難所を駐車場と決め、必ず駐車場まで避難しています。また地震や台風にも備えられるように食糧や水の備蓄を行っています。	半年に一度避難訓練をしている。事業所の立地は洪水、崖崩れなどの影響のない場所であるため安全である。建物の構造も平屋のU字型であるため、地震の影響も受けにくい。地区の消防団とも連携が取れている。備蓄の準備は十分に行い、オール電化のため、カセットコンロの用意もしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った言葉かけをしています。出身が山梨でない方には標準語で話しかけるようにしています。また親しみをこめ苗字ではなく下の名前と呼びかけることがあります。	その人に合った言葉かけをしています。出身が山梨でない方には標準語で話しかけるようにしています。また親しみをこめ苗字ではなく下の名前と呼びかけることがあります。	一人一人に合わせた言葉遣いをして、話しやすくしている。同じ苗字の方が居る場合や、本人の希望がある場合は、下の名前と呼ぶこともある。トイレへの誘導は他の利用者に気づかれないような配慮をしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームきたじま苑

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピンク棟)	ユニット名(ブルー棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるような環境づくりを心掛けています。できない方にはご本人に合った手助けを職員が行えるように努めています。	ご本人が自己決定できるような環境づくりを心掛けています。できない方にはご本人に合った手助けを職員が行えるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のグループホームとしての流れはありますが、居室でTVを見たい人・昼寝をしたい人などご本人が自己決定できるような環境づくりをしています。	毎日のグループホームとしての流れはありますが、居室でTVを見たい人・昼寝をしたい人などご本人が自己決定できるような環境づくりをしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人がその時着たい服を身につけていただいています。重度化されている方に対してはご本人の負担を考慮してご家族等と相談して決めています。可能であればご家族等にお願しい理美容室の利用や衣服・化粧品等の購入も支援しています。	ご本人がその時着たい服を身につけていただいています。重度化されている方に対してはご本人の負担を考慮してご家族等と相談して決めています。可能であればご家族等にお願しい理美容室の利用や衣服・化粧品等の購入も支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には管理栄養士が考えたメニューですが、アレンジしてご利用者の希望を取り入れながら献立を考えています。できる方には調理にも参加していただいています。	基本的には管理栄養士が考えたメニューですが、アレンジしてご利用者の希望を取り入れながら献立を考えています。できる方には調理にも参加していただいています。	食材は業者に納品してもらったり、職員が買い出しに行ったりしている。コロナ以前は利用者様も一緒に買い出しに行っていた。日頃の会話から食べたい物をメニューに取り入れることもある。誕生日や季節の行事は特別メニューにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員間で相談をしご利用者それぞれの健康状態や持病・嚥下状態などを考慮して、量・バランス・大きさ・水分量を考えています。とろみやペーストにも必要であれば対応しています。	職員間で相談をしご利用者それぞれの健康状態や持病・嚥下状態などを考慮して、量・バランス・大きさ・水分量を考えています。とろみやペーストにも必要であれば対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎夕食後にはいれば洗浄剤を使用して清潔保持に努めています。残菌がある方には歯磨きを行っていただいています。ご自分でできない場合には職員が行っています。必要な方には口腔ケア用ウエットティッシュを使用しています。	毎夕食後にはいれば洗浄剤を使用して清潔保持に努めています。残菌がある方には歯磨きを行っていただいています。ご自分でできない場合には職員が行っています。必要な方には口腔ケア用ウエットティッシュを使用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して時間ごとの誘導を行い、なるべく失敗しないでトイレでの排泄ができるように支援しています。おむつの方は時間での確認・交換を行っています。	排泄チェック表を活用して時間ごとの誘導を行い、なるべく失敗しないでトイレでの排泄ができるように支援しています。おむつの方は時間での確認・交換を行っています。	日中はオムツを使用する利用者はいない。排泄チェック表を活用して、一人一人のパターンに応じた排泄誘導を行っている。夜間のオムツは本人の希望で使用する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂取していただけるように声掛けを行っています。体操などを行っていますが、便秘気味の方は主治医に相談して服薬や洗腸で対応しています。	水分をしっかり摂取していただけるように声掛けを行っています。体操などを行っていますが、便秘気味の方は主治医に相談して服薬や洗腸で対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の設定はありますが、できるだけ自由に入浴できる環境づくりを心掛けています。重度化されている方は駐車場横にある特殊浴を使用していただいています。	入浴日の設定はありますが、できるだけ自由に入浴できる環境づくりを心掛けています。重度化されている方は駐車場横にある特殊浴を使用していただいています。	入浴は週二回の設定としているが、本人の希望に沿って回数を増やすなどしている。大人二人で補助しないと入れない方も出てきているので、特殊浴を後から設置した。季節に応じてゆず湯にしたり、入浴剤を使用したりと、入浴を楽しめる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には就寝時間は決めていませんが、ほとんどの方が20時ごろには居室に戻り休まれています。睡眠導入剤を処方され飲まれている方もいます。	基本的には就寝時間は決めていませんが、ほとんどの方が20時ごろには居室に戻り休まれています。睡眠導入剤を処方され飲まれている方もいます。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームきたじま苑

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ピンク棟)	ユニット名(ブルー棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルにファイリングしています。お薬手帳を作り活用しています。服薬変更があった場合にはミーティングノートに書き込み周知しています。病状変化には看護師と相談し主治医に伝えるようにしています。	処方箋を個人ファイルにファイリングしています。お薬手帳を作り活用しています。服薬変更があった場合にはミーティングノートに書き込み周知しています。病状変化には看護師と相談し主治医に伝えるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の出来ることを見極め、調理・掃除・洗濯・洗濯物のたたみなどしていただいています。また中庭には自動販売機があり、いつでも買えるようになっています。	ご本人の出来ることを見極め、調理・掃除・洗濯・洗濯物のたたみなどしていただいています。また中庭には自動販売機があり、いつでも買えるようになっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車いすを使っている方が多いため、全員での外出は困難になっています。以前は誕生日に職員と外食に行っていましたが、現在はご本人が食べたいものを(寿司や弁当)を買い食べていただいています。近所の神社に初もうでや桜の花見・散歩に出かけるようにしています。	車いすを使っている方が多いため、全員での外出は困難になっています。以前は誕生日に職員と外食に行っていましたが、現在はご本人が食べたいものを(寿司や弁当)を買い食べていただいています。近所の神社に初もうでや桜の花見・散歩に出かけるようにしています。	初詣は人の多い三が目を避けて、近所の神社へ行った。桜の花見は、事業所の駐車場から見えるので開催した。未だ人の多い所には行けないので、秋は事業所の中庭に出て食事会を楽しんだ。事業所の中庭を散歩したり、敷地内の草取りをする利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族等と相談して出来る方は所持していただいています。出来ない方はご家族等からお小遣いとして預かりこちらで管理して、後日ご家族等に明細・現金出納帳を返却しています。	ご家族等と相談して出来る方は所持していただいています。出来ない方はご家族等からお小遣いとして預かりこちらで管理して、後日ご家族等に明細・現金出納帳を返却しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等や友人などに電話や手紙を出したいとの要望には出来るだけ対応しています。ご家族等や友人などから電話や手紙が来た場合にも対応しています。	ご家族等や友人などに電話や手紙を出したいとの要望には出来るだけ対応しています。ご家族等や友人などから電話や手紙が来た場合にも対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち心地よく使っていただけるよう努めています。温度調節や採光などはご利用者と相談して決めています。また季節の花などをリビングに飾るようにしています。	清潔を保ち心地よく使っていただけるよう努めています。温度調節や採光などはご利用者と相談して決めています。また季節の花などをリビングに飾るようにしています。	朝、夕に職員がモップでリビングなどの掃除をする。午前、午後、夜間にはトイレの掃除を行っている。壁には職員が書いた来年の干支に、利用者が色を塗った絵を飾り、明るい雰囲気を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルでの席は決まっていますが、リビングフロアにはソファを置き気兼ねなく使えるようにしています。	テーブルでの席は決まっていますが、リビングフロアにはソファを置き気兼ねなく使えるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していたタンスや仏壇・テレビなどを持ち込んで使用されている方もいます。配置についてはご家族等と相談しています。	以前から使用していたタンスや仏壇・テレビなどを持ち込んで使用されている方もいます。配置についてはご家族等と相談しています。	居室にはエアコン、カーテン、タンス、洗面台、ベッドが備え付けてある。持ち込む物は相談して決めているが、仏壇の線香はご遠慮いただいている。部屋の配置は利用者ご家族で行い、本人の居心地、歩きやすさ等を配慮して設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室で横になっていることが多い。入り口には表札を貼りご自分の部屋だとわかるようにしています。居室内には出来るだけ余計なものを置かないようにし、安全な歩行や移動が出来るよう努めています。	居室で横になっていることが多い。入り口には表札を貼りご自分の部屋だとわかるようにしています。居室内には出来るだけ余計なものを置かないようにし、安全な歩行や移動が出来るよう努めています。		